

ありのままの自分

3年 R・Sさん

ドクヘビのブハーはドクがあるので、みんなにこわがられ、仲間に入れてもらえません。それでもブハーは仲間に入るために、たきの水でドクを流そうとしたり、木をかじり続けたり、様々な努力をします。

私は、積極的に仲間に入ろうと努力するブハーをそんけいします。なぜなら、話しかけるには勇気がいるからです。私は、新しい友だちを作る時に、なかなか話しかけることができません。「友だちになろうよ。」と気軽に話しかけるのが上手な子は、おしゃれだったり、物知りだったり、明るかったり、どこか魅力的なところがあります。その子たちと自分をくらべると、自信がなくなってしまう。思い切って声をかけたブハーを応援したくなりました。

おとなになったブハーは、ドクがあるのが悪いことだとは、もう思わなくなりました。自分が欠点だと思っていたドクで、山犬から友だちを助けることができなからです。

だれかが笑顔になったり、幸せになったりすると、自分の欠点だと思っていたところが、ちがって見えてくるのかもしれない。

ある日、学校の帰り道で、道ばたにある花を取って、クキが空洞か確かめようとしてしまった。その時、友だちに「なにをしているの。だめだよ。」と、強く言われたため、すぐに「ごめん。」とあやまってしまいました。友だちは、その言葉に納得したようにうなずきましたが、私は「教えてあげただけなのに。たくさん花はあったよ。」と言えず、もやもやしました。その場の雰囲気から、言い返してしまうと相手を傷つけてしまうのではないかという気持ちが先に立って、言いたいことが言えなくなってしまったのです。

すぐにあやまってしまったことや、言い返せないことは欠点だと思っていたけれど、お母さんに「それは相手の気持ちを考えられるということだよ。」と言われ、自分の欠点にも良いところがあると気付きました。

私は、この本を読んでありのままの自分を受け入れることが大切だと学びました。これからも相手の気持ちを思いやることを大事にして、家族や友だちに笑顔を届けていきたいです。